

社会福祉法人恵和 令和2年度事業報告

重点目標及び経過状況

1. 利用者支援の充実

重度・高齢化する利用者の状況に合わせて各事業所が取り組みを進めた。

青年寮では、一人ひとりの暮らしが充実するよう日中活動の支援体制を大幅に見直した。懸案となっていた入所定員の削減については、利用者の退所により、昨年10月に90名から80名へ定員変更を行い、『月の家』居住環境が新棟並みに改善した。グループホームにおいては、老朽化したアパート型住居の移転が3月に完了した。合わせて、高齢者への手厚い支援が行えるよう「めぐみ」ホーム一箇所を「やわらぎ」ホームへ転換して、利用者の住み替えを進めた。また、安定的運営に向けて夜勤専従の常勤職員を雇用できるよう給与改定や職員配置の検討など準備を進めた。通所事業所においても、利用者個々の支援内容の充実、新たなプログラムの取り組みを行った。

2. 人材の確保と育成

人材紹介業者を活用して職員採用を進めた。採用試験においては、適性検査を導入して良質な人材の確保に努めた。雇用形態においては、柔軟な職員配置が可能となるよう常勤雇用を中心にすすめ、夜勤専従職員や兼務職員など多様な形態となった。また、利用者の重度・高齢化による労働環境の変化を踏まえて、入所職員対象の変則勤務手当の改定や年末年始勤務の手当支給など、改善をはかった。育成面においては、外部派遣研修などコロナ感染症の影響を受けたが、法人内研修については、従来からの階層別研修をはじめ、先輩職員と後輩職員がともに行うOJT研修を行い、『人が育つ』、『組織力の向上』といった目標に向け、一定の成果を得た。

3. 収支バランスの健全化

入所施設においては、定員変更の実施と加算要件の研修受講が順調に進んだことから、収入状況は改善傾向にある。また、請求業務の確認過程において請求漏れが判明し、大幅な収入増となった。グループホームにおいても、ホーム移転や住み替えを実施しながらも、空床の発生を最小限にとどめることができた。通所事業所では、恵和館において、コロナ感染者の発生による影響を受ける形となり利用者数の減少がみられた。

過誤再請求による収入増については、青年寮において積立金の積み立てを行ったほか、コロナ禍における慰労として臨時特別手当を法人内全職員へ支給した。

4. 災害対策

局地的豪雨の発生による入所建屋の浸水被害が確認されたため、雨水流入防止壁を設置した。また、停電等の被害も想定されるため、非常用トイレや電池式非常用照明の設置、さらに、長期間停電に備えたポータブル発電機の整備をすすめた。食料等備蓄品については、対応日数を4日間から6日間備蓄に増強した。

5. 新型コロナウイルス感染症に関する対応

現在までに、職員4名利用者2名の感染（感染経路不明や家庭内感染）が確認されたが、法人内における感染の連鎖は防ぐことができた。感染予防については、マスク着用や消毒作業、活動や交流範囲の縮小などの基本対策のほか、加湿器やオゾン空気清浄機を設置して万が一の発生に備えた。職員に対しては、不要不急の外出自粛を繰り返し呼びかけるとともに、発熱や倦怠感、体調不良などの感染が疑われる際の扱いにおいて、出勤を極力控え、自宅勤務扱いとする対応とし、法人内における感染発生を防ぐよう取り組んだ。